



シリーズ 子どもたちの発達

子どもの遊びと発達『絵本』

「子どもに絵本を与えるのはいつごろからがいいのでしょうか？」

「今のこの子には、どのような絵本がいいのでしょうか？」

「読みかせをしたほうが、子どもの心が豊かに育つときいたのですが、あまり興味をしめさない。どうしたらいいのですか？」

などなど、保育室で日常的に、保護者の方から『絵本』について質問されることがあります。実際に本屋に行くと、色々な種類の様々な本があり、子どもの発達と絵本についての情報は雑誌などで特集されていたりと、あふれる情報があるがゆえに子どもの実際の興味関心に合わせた絵本選びには頭を悩ませることでしょう。

特に絵本については、『子どもの情緒・言葉を育てる』『親子のコミュニケーションを助ける』『心の豊かさを育てる』など、心の育ちや豊かさについて取り上げられることが多いので、慎重に考えるのだと思います。そこで今回は、乳児期の子どもに『いつごろ・どのような絵本を・どのように提供していくのか』ということを子どもの発達と各段階に合わせて考えていきたいと思えます。

(絵本に会う)

一番初めに子どもが会う本が、身近にある良く知っているもの(動物・乗り物・道具・食物など)が出てくる『もの絵本』です。

1歳前後になると子どもは、頻繁に周囲のものを指差しするようになります。子どもにとってこの指差しは、身近にあるものに注目し、それらに名前があることを知り、単語でモノを言い、指し示しという『もの』を認知する大切な行為です。また、三項関係という「じぶん」-「もの」-「ひと」についての関係を知ることにもなります。子どもは身近にあるものを絵本の中に見つけて再認識するので、絵本は、身近にあるものが丁寧に描かれ、絵は極端にデフォルメのされていないわかりやすくリアリティーのあるものがよいと思います。

(大人とのやり取り、会話がある絵本)

2歳前後になると子どもは、言葉をかなり覚えてきて、大人とやり取りすることをとても喜ぶようになります。この頃に、子どもに与えたいのは、大人とのやり取りや会話ができる日常生活や遊びを描いた『生活絵本』です。

なぜなら、2歳前後の子どもにとって、イメージすることを助けるには言葉だけでは十分ではなく、絵によってイメージができるものが好ましいからです。

だから、絵に特徴があり、イメージ、表現、簡単な言葉、意味が添えられているものが良いでしょう。保育室には『こんにちは』という本がありますが、この本はうさぎがテクテク歩いていき、いろいろな動物と行きかい「こんにちは」と挨拶する繰り返しのある本です。子どもにとって挨拶はとても身近にあるやり取りの一つで、それを色々な動物とするところに変化もあり、読んでいると、子どもは「こんにちは」のところで自分も声を出し頭をぺこりと下げて「こんにちは」ということを喜び楽しんでいきます。絵本を媒介として子どもは大人と言葉の意味を共有することを楽しんでいて、そうした楽しい体験を通じて、認知、言葉の発達、状況・感情を適切に表現する言葉として理解していくのです。

(想像性への刺激とファンタジー)

3歳前後になると、想像力も活発になり、ユーモアのあるお話や生活の中の体験をアレンジした嘘話などを好んでききたがるようになります。この頃になると、子どもの体験やその体験の中で感じる喜怒哀楽がテーマとなったストーリー性のある『物語絵本』を与えたいです。

なぜなら、子どもはお話を通して自分の体験と照らし合わせて想像力を働かせる、共感するなど、物語を通して情緒・感情を育てるからです。だから、子どもが飽きずに集中して聞ける長さ、奇想天外な空想物語ではなく子どもの経験にそった感情・表現のあるものが、絵本としてよいでしょう。

『ぐりとぐら』『ねずみくん』などのシリーズがまさにそれでしょう。物語の主人公たちの体験が、子どもに未知の現実を体験するという新たな体験をさせてくれるのです。そのなかで、考えたり想像したりする思考性、知的探究心、人の話を聞く習慣、語呂力、記憶力、情緒を育てていきます。それらは、絵本のストーリーになぞらえて遊びを再現したり、役を引き受けて主人公になりきったり、絵本の中で体験したことをごっこ遊びという形で再体験していくことで、子ども自身の中にフィードバックされ、子どもの力となっていきます。

子どもの発達とその段階に適した本について話してきましたが、子どもの発達に合わせて本を選ぶことと並んで大切なことが、大人と一緒に読むということです。絵本を読む大人が、子どもに心を沿わせること、一緒にその世界を楽しむ、心を込めて読もうとする気持ちが、子どもに絵本の世界をさらに楽しませ、興味・関心を呼びます。

そして絵本には、一方的に語りかけてくるテレビと違って、子どもの反応に応じてお話するので、そこにはコミュニケーションが存在します。

そのことが、何より子どもの気持ちを豊かにし、情緒を育てていくのではないのでしょうか。絵本を選ぶところから、どんなやり取りや会話を子どもと楽しみたいと思うのか、あるいは子どもはこの本のどんなことを喜ぶのだろうと、子どものことを想像しながら選んでみると、ステキ絵本に出会えるかもしれませんね！

柏市駅前認証保育園 Kid's Encourage
園長 日下部樹江

